

一般社団法人・静岡県中部未来懇話会の理事・運営委員・研究委員全体会が1月26日、静岡市葵区紺屋町のグランディエール ブケトーカイで開かれた。当懇話会研究部会が中心となってまとめた2016年度年間調査研究テーマ案「地域の分水嶺～リスクを超えて挑戦する」を研究部会長の西野勝明・県立大教授が説明し、承認された。

静岡県中部未来懇話会 理事・運営委員・研究委員全体会

16年度年間テーマ案承認

「地域の分水嶺～リスクを超えて挑戦する」

同研究部会では昨年10月末、16年度の研究テーマ案について協議し、産業の新潮流に挑む経営や地方創生の条件などについて検討していくことを決めた。その後、12月10日の運営委員会との合同会議での協議を経てテーマ案を固めた。



16年度年間調査研究テーマ案などについて討議した理事・運営委員・研究委員全体会。静岡市葵区のグランディエールブケトーカイ

趣旨説明で西野部会長はテーマ案設定の背景について「日本経済は大手を中心に企業収益はかなり伸び、有効求人倍率も23年ぶりの高さを示している。しかし、民間設備投資の減少でGDPはマイナスとなり、マクロとミクロの乖離が見られる」と指摘した。その上で「産業界ではIoTやインダストリー4.0、AI、3Dプリンター、フィジックなど新しい産業用語が出現するなど大きな構造変化に直面している。こうした新潮流が新しい経営に結び付くか解明したい」と述べた。

さらに「地方では人口減少問題が深刻で、各自治体とも対策に追われている。自治体の多くは総合戦略の作成も終えているが、今やどう実行に移すかだ。いずれにしろ地域も企業も分水嶺に差し掛かっている。この分水嶺を超えて前進できるかどうか。こうした時代だからこそリスクを超えて挑戦していくこと

が求められている」と説明した。調査研究は年2回のシンポジウムを開催し、基調講演とパネル討論で構成。具体的には春のシンポ（6月）では「産業の新潮流に挑む企業経営者」と題して、産業の新潮流の本質と影響、中小企業を含めてリスクを超えて挑戦する企業経営のあり方を討議する。

秋のシンポ（10月）では「地方創生の条件～地域エコシステムの構築を目指して」とし、生態学で言う多様な生物と環境の相互作用を社会システムにも当てはめて考える地域エコシステムに着目するとともに、総合戦略から見えてくる地域の課題も検討する。

このほか懇話会事務局が、中部地域経営会議が前年度の起業・創業に続いて取り組んでいる「女性の活躍施策」などの活動状況を報告した。引き続き理事会が開かれ、16年度事業計画及び収支予算案と3月11日の臨時社員総会開催なども了承された。